

# 令和元年度 前期学校評価アンケート結果（7月実施）

今年度前期の学校評価アンケート結果のご報告をいたします。生徒・保護者・教職員それぞれのアンケート結果から見えてくる学校の課題について、学校運営協議会、校内委員会、PTA運営委員会等で協議をしました。昨年度同様、肯定的な回答を集計し、基準値の75ポイントを一つの目安として表示いたしました。以下に、協議会や委員会で協議した内容をまとめましたので掲載させていただきます。

## ＜確かな学力の向上について＞

昨年度の評価結果同様、家庭学習が定着できていないことが大きな課題であることは依然変わらない。また、今年度新たな評価項目として、「振り返り学習ができているか」「授業で理解できていない内容について取り組めているか」の2項目を追加した。この項目については数値が低く、家庭学習が定着できていないことと密接に関連していることが明らかになった。授業に対しては、関心を持って意欲的に取り組んでいこうとしているものの、前述の課題が原因となり、学力の向上につながっていない。課題の解決には時間がかかり、すぐに結果が出るわけではないが、家庭と協力しながら取り組んでいくことが大事である。

そして、指導者が手をかけ過ぎず、時間がかかるても子どもの自主性を尊重し、見守っていくことで、子どもが主体的に学ぶ力が育んでいきたい。

また、教職員が「子どもの授業に取り組む姿勢や意欲」、「自身の授業の指導改善への姿勢」については肯定的な捉え方をしているが、学力定着の結果として表れていないことを鑑みると、教職員のさらなる意識改革と授業の検証が必要となってくる。

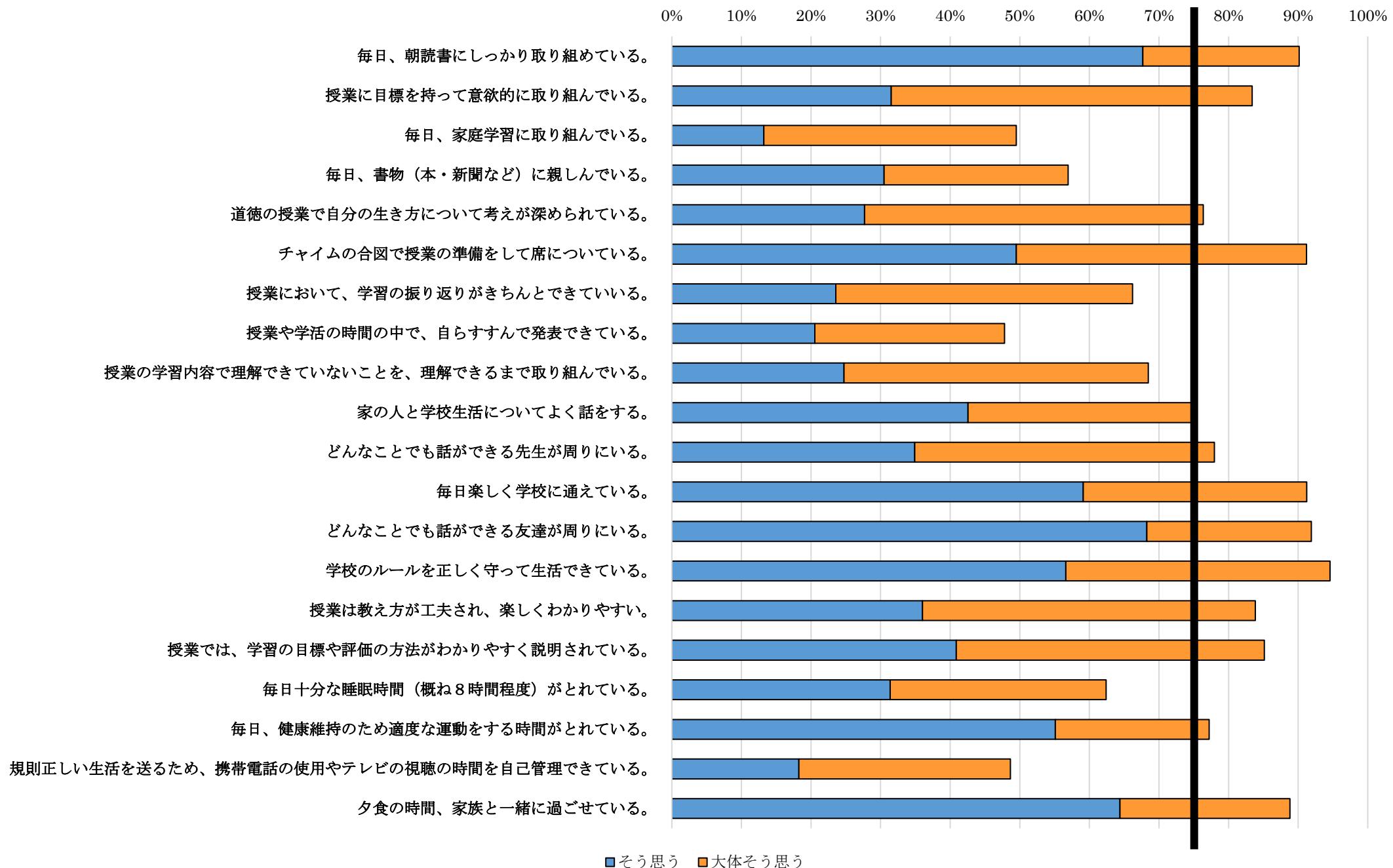
## ＜豊かなこころと健やかな体について＞

生徒会活動、学校行事、部活動を通じた教育活動については、子どもたちが成就感や楽しさを体感しており、そのことにより自己肯定感を育めている。また、その事により子どもが学校に楽しく通えることにつながっている結果は、昨年度と同様で喜ばしいことである。地域の方もそのことを高く評価され、「教育活動で、このことが最も大切なことである」との意見が多かった。

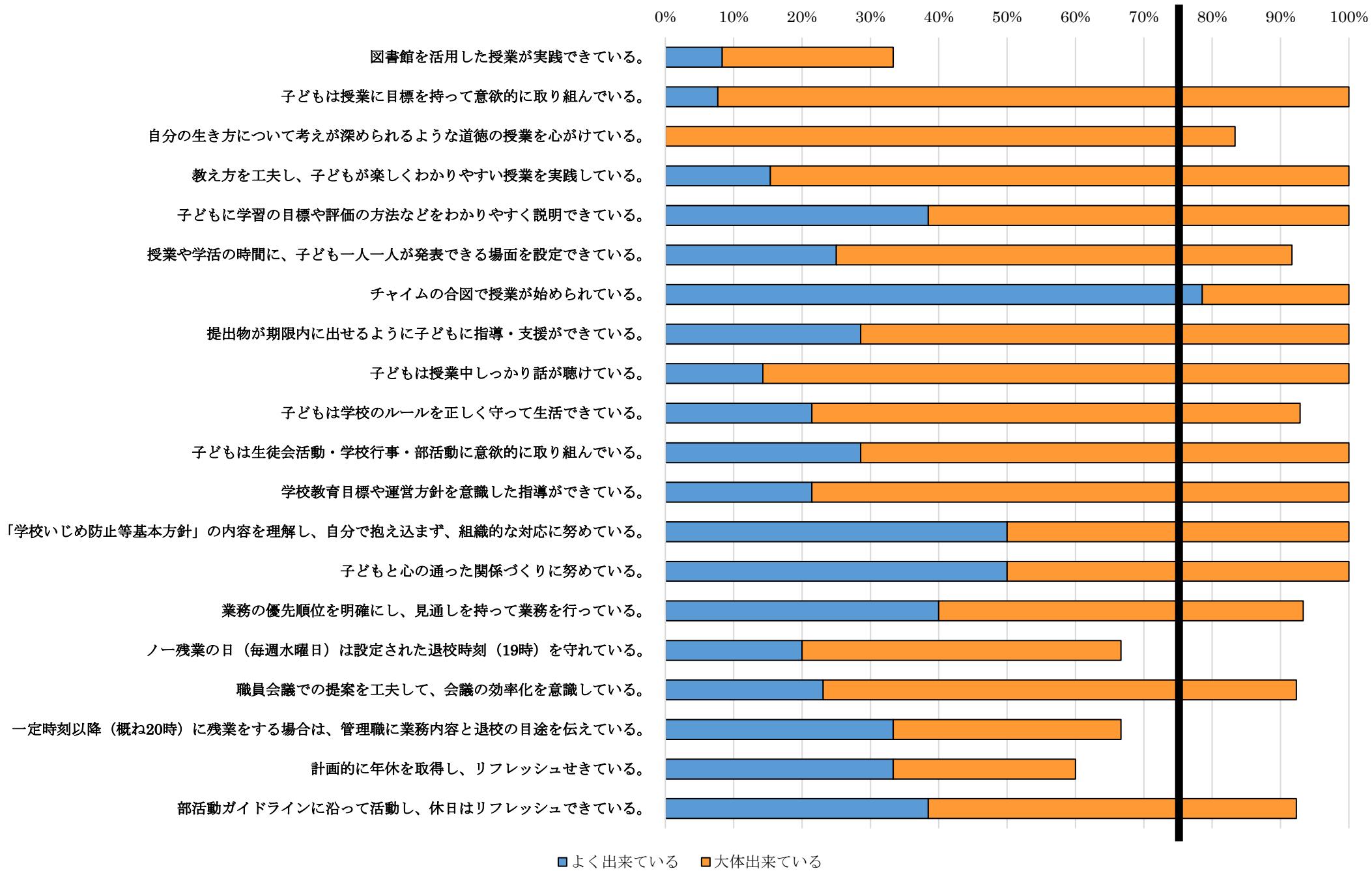
「携帯やスマホの利用時間やテレビの視聴時間などの自己管理ができているか」と「十分な睡眠時間がとれているか」については、依然として数値が低く、基本的生活習慣の乱れを生み出していることにつながっている。この現状については、小学校でも同じ状況が生まれているという報告があり、学校と家庭が協力して取り組むことが喫緊の課題である。

いじめの防止に向けて、「周りに相談できる友達がいるか」の項目については、高い数値を示しているが、子どもと教職員との共感的理解の深まりについては、さらなる取り組みが必要である。また、「学校の様子について、家庭で話をするか」の項目については、子どもも保護者も数値が低いが、思春期という特異な時期であることを考えると、由々しき状況と考える必要はないという意見が多かった。今年度新たに追加した「夕飯の時間は家族と過ごせているか」の項目については、予想以上に数値が高く、孤食の状況にある子どもが少ない結果がみられた。最後に、生徒会を中心とした全校集会の取り組みや、外部の講師を招いた啓発活動を通じたこれまでの取り組みを継続しながら、来年度は道徳教育や総合的な学習を通じて、子ども自らが社会や学校の規範についてさらに考える場を与えることにより、規範意識を深化させていくべきである。

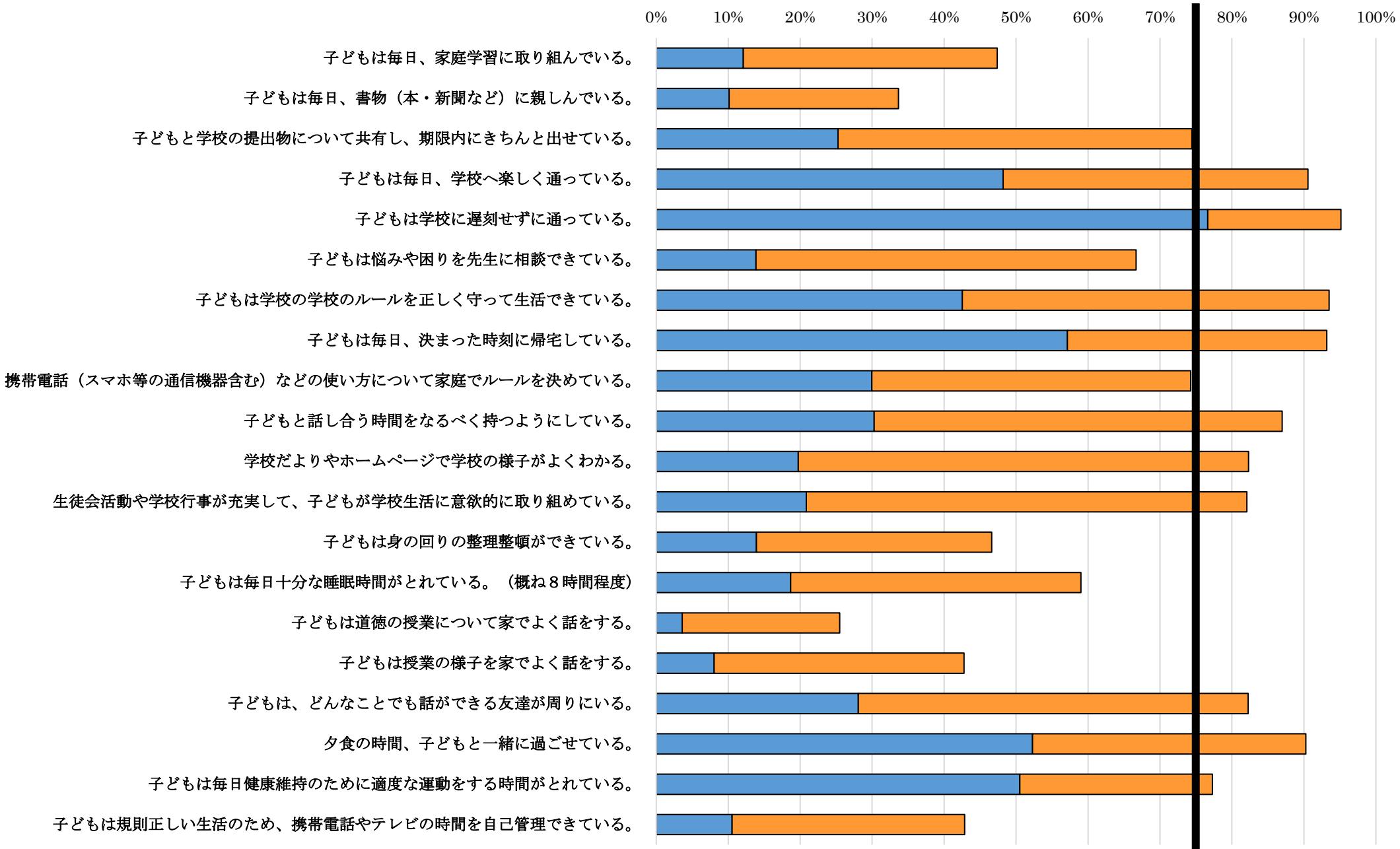
## 2019年度 前期学校評価アンケート結果（生徒）



## 2019年度 前期学校評価アンケート結果（教職員）



## 2019年度 前期学校評価アンケート結果（保護者）



■ そう思う ■ 大体そう思う